



響く空襲警報 破壊された学校…志波玲さんウクライナ取材報告



ロシアがウクライナに侵攻してから24日で1年になるのを前に、ジャーナリストの志波玲さんが6～18日にウクライナを訪れ、首都キーウ周辺や東部を取材した。前線に近い東部ドネツク州クラマトルスクでは、破壊された住宅や学校を目の当たりにしており、ロシア軍の攻撃は明らかに国際人道法で禁じられている無差別攻撃だ」と訴える。

志波さんがロシア侵攻後のウクライナを訪れたのは2回目。昨年は4月上旬から約3週間、露軍による民間人虐殺が疑われるキーウ近郊ブチャで生存者や遺族にインタビュー、郡山にも6月に訪れ取材報告を行った。

キーウ周辺の街の様子について、「時折攻撃は受けるものの、人々は日常を取り戻そうとしており、店や事業所なども営業を再開しているところが増えた」と感じた。だが、露軍のインフラ攻撃で停電が起き、市民や店舗は小型の発電機で急場をしのいでいた。物価も1・5倍ほどに高騰し、生活費の負担が大きくなっているという。「戦争は早く終わってほしいが、ロシアに妥協したくはない」との声が多かった。

クラマトルスクには12日から4日間滞在した。1日には複数のアパートが露軍のミサイル攻撃を受けて20人以上が死傷したばかりで、毎日空襲警報が鳴り響いており、滞在中には病院の敷地内にロケット弾が着弾した。市内の二つの学校も完全に破壊されていた。市内の集合住宅に住むディアナさん(55)は、働いていた工場が戦争で操業停止に陥って失業に追い込まれ、ボランティア組織の支援を受けている。ディアナさんの部屋も露軍の攻撃で窓ガラスが割れ、壁にひびが入るなどの被害に遭った。

ウクライナで民間人や施設の被害を改めて確認した志波さんは、「日本としても『国際法が無視され、市民が攻撃されることを許さない』と、もっと大きな声を上げるべきではないか。ロシアへの制裁に参加していない中国やインドなどの『中立国』も、ロシアに対して侵攻をやめることを働き掛けるべきだ」と力を込めて話す。(毎日新聞 2.21)

志波さんは、23日に「戦争と命の尊厳を考えるつどい」で安田純平さんとともに取材報告を行った。また、24日夕には「戦争させない・9条壊すな！総がかり実行委員会」主催の「ロシア軍の即時撤退を求める大集会」が日比谷公園で開かれデモ行進が行われた。

大注目！！

新年度から郡山市が中学校給食無償化開始、しかし

「防災食」として2月20日に給食センターで温めてきたレトルトカレーを提供

「調理レス」の学校給食実施検討を公言

品川市政は

給食センター丸ごと民営化を進めたいのかな？

第38回ミナセンなかどおり相談会

2月27日(月)午後1時半～

郡山医療生協多目的ホール

★台湾有事煽り、軍備予算拡大、琉球弧の要塞化—戦場にさせないとりくみ

★3月市議会への請願提出など